

# 中国湖南省新寧県瑶族「盤王節」調査報告

廣 田 律 子  
HIROTA Ritsuko  
(事業推進担当者)

今回中国湖南省新寧県に居住する瑶族の「盤王節」の調査を行い、祭祀儀礼の内容はもちろん、宗教職能者の身体表現の記録、祭祀の中で歌われる神話の採集に努めた。不十分ながら現段階で得られた成果をもとに、以下に概要を報告する。

## I 調査地

今回の調査地新寧県麻林瑶族郷は、湖南省の南西に位置し、長沙からは約 400 km ほど離れ、広西壮族自治区にほど近い。面積は 178 平方 km で、人口は 12,000 人ほどである。民族構成は 67% を瑶族が占め、他に苗族、侗族、壮族が居住する。特産の楠竹（孟宗竹）の栽培面積は 70,000 畝に達する。

平均海拔約 800 m で 10 月の初旬でも早晩はセーターが必要なほど気温が下がった。

## II 調査経緯と日程及び同行者

中国北京の民間文芸家協会の白庚勝氏に依頼し、湖南省民間文芸家協会の張勁松氏が中心となって、1948 年以降 56 年間途絶えていたとされる、湖南省新寧県に居住する八峒瑶族に伝わる盤王節（竹王節、打鼓堂、慶盤王、跳鼓壇とも称される）を復活させた。

10 月 2 日に長沙到着、3 日に麻林瑶族郷に移動、4 日から 6 日まで祭りを調査、7 日に長沙に移動、8 日に帰国という日程で、祭りの記録及び宗教職能者（師父）やその他の関係者や住民からの聞き書き、関連資料の収集などを行った。

専門的知識の提供者として北京の民間文芸家協会から白庚勝氏、呉徴氏、劉曉路氏が、湖南省民間文芸家協会から張勁松氏が同行した。

## III 祭りの次第及び宗教職能者（師父）

### 1 祭りの次第

本来旧暦 10 月 18 日の盤王の誕生日に実施され、7 日 7 晩を要する祭りなのだが、今回 10 月 4 日から 6 日に実施し、3 日 3 晩を復活させた。

4 日—6 日の演目と担当の師父の氏名は次の通りである。

#### 4 日午前

1. 入場儀式：秦法旺，陸法高，秦法高，李法魁，雷法青，雷法雲，雷法青及び 6 人ずつの男女
2. 設壇請聖：秦法高
3. 請水発牒及び揚幡挂榜：李法魁，秦法高，陸法高，雷法青，雷法雲，雷法信

#### 午後

4. 立五楼四寨：雷法青，6 人ずつの男女
5. 点兵差五猖困鼓壇：陸法高，6 人ずつの男女
6. 請聖下馬行官献訣勸酒：秦法旺

#### 夜

7. 開壇：李法魁，陸法高
8. 一祭盤王：雷法青，雷法信
9. 二祭盤王：陸法高，秦法高

#### 5 日午前

10. 上雲梯開天殺：陸法高
11. 三祭竹王：秦法高，雷法雲，6 人ずつの男女

#### 午後

12. 接何氏六娘：李法魁，雷法信，雷雨英，蘭銀連
13. 四祭盤王：雷法青，李法魁

#### 夜

14. 山歌：6 人ずつの男女
15. 過火海：秦法高

16. 山歌：観衆

6日午前

17. 扛郎君：陸法高

18. 祭祖先接土地：李法魁，6人ずつの男女

午後

19. 做辞送：李法魁

夜

20. 倒台発散：秦法旺

## 2 師父について

師父は法名を受ける抛牌の儀を経て一人前として認められ、牌印という印授を師匠から与えられる。今回盤王節に参加した師父7名について以下にまとめる。

法名秦法旺（秦玉修）83歳は漢族，黄金郷黄金村在住。父秦法義を師とする。父の師は雷法洪（瑶族）だった。20歳の時に法名を受ける。解放後郷政府の秘書等を歴任。

法名秦法高（秦剛）32歳は漢族，黄金郷黄金村在住。秦法旺の息子。24歳で法名を受ける。

法名李法魁（李大海）61歳は瑶族，麻林郷三水村在住。秦法宝（李道相）の弟子。陸法高の兄。李姓は父方の姓。

法名陸法高（陸大猷）34歳は瑶族，麻林郷三水村在住。秦法宝の弟子。李法魁の弟。陸姓は母方の姓。

法名雷法青（雷支竜）は瑶族，麻林郷高竹村在住。秦法旺の弟子。秦法高は兄弟弟子。秦法旺の師匠の雷法洪は伯父にあたる。

法名雷法雲（雷存勇）68歳は瑶族，黄金郷黄金村在住。陳代忠の弟子。20歳から法を学ぶ。

法名雷法信（雷代信）は瑶族，麻林郷上林村在住。

宗教者の日常手掛けている法事を以下にまとめる。

(1) 慶廟：山神廟を祭る。3年に1度郷全体で大祭を行い、年に1度村全体で祭りを行う。

(2) 慶梅山：狩人の葬儀の際行う法事。

(3) 慶王師：葬儀の際行う法事。

(4) 送瘟：依頼者がいると、村全体の1日かけた除災。天殺や過火海の内容を含む。

(5) 送鬼驅邪：家で行う除災。

(6) 解災渡悪：家で行う除災。

(7) 難産の場合の祈禱。過火海を行う。

(8) 放陰：地獄の七殿まで達し、死者と話をする。

日頃のこうした活動があってこそ、今回の復活が可能になったと考えられる。

## IV 祭りの祭場及仮面

### 1 祭場

祭場は人壇（三清壇）と薩壇から成り、人壇には祭壇が置かれ、薩壇はまるく竹で囲まれ神像と竹王の家（竹寮）と東南北西中の五方の門が設置される。（図1祭場の図参照）

人壇は、前後の祭壇から成る。後の祭壇の背後に3枚の総聖と呼ばれる元始天尊、玉皇大帝、太上老君等の名だたる108の神々の描かれた図がかけられる。図の下の方には角笛をもった宗教者らしい人物が描かれ、祭りの内容に相当する狩りをする人等も見られる。後の祭壇には東山老人、南山小娘と称される夫婦神の頭部を中心に、右に「唐玄郭勇梅山五猖兵馬位」、中央に「三橋王母九官仙女五方神靈父母之神位」左に「供奉五路梅山四山之神位」の神牌が米や粿がらを満たした香炉に挿し飾られる。また仮面が並べられる。祭壇下には土地神が祀られる。

前の祭壇は2層になっており、上層には三清、玉皇が祀られ、下層には太上老君の絵を中央に、右から「南全教主普安祖師之神位」「儒釋道巫四教福神香火位」「本宗堂上〇氏門中先祖位」（〇は未記入）太上老君の絵の左には「二十八宿星君值年太歳位」「南海岸上観音菩薩之神位」の神牌が飾られ、左の端に九子太婆の絵が飾られる。

薩壇の像は竹の骨組みに紙が貼られて作られている。盤古は中央に置かれ、3m位の高さで一番大きい。赤面で3本の角を生やし、上中下6本の腕をもち、上手左・右に日・月、中手に万民、下手左・右に乾・坤をもち、足に風火輪をつける。

玉面天尊（竹王）は白面で、座って表現され、祭りの2日目から設置される。竹王の竹寮にはベッド、三石の竈、椅子が設えてある。

蛇星蛮王（盤瓠）は白面で赤鬚を生やす。像はもともと犬の頭に人身で表現されていたそうだが、今回頭部も人間に作られた。鉾をもつ。

獐星蛮王は赤面で、黒い鬚を生やす。魚を捕るうけ

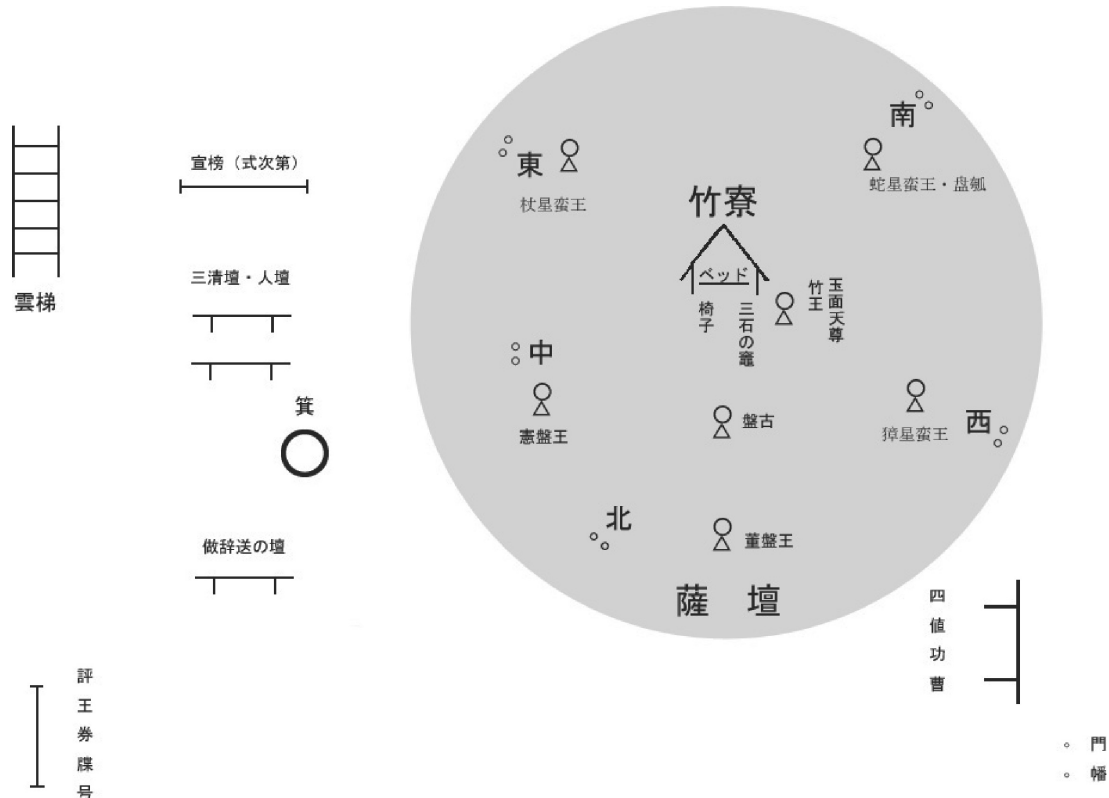


図1 祭場の図

をもつ。

董盤王は白面で、皮を剥ぐ道具をもつ。

憲盤王は黒面で、赤い鬚を生やす。弓矢をもつ。

杖星蛮王は黒面で、黄色い鬚を生やす。さすまたをもつ。

薩壇の脇に四値功曹の祭壇が設置されており、日値・時値・年値・月値の面の他、祭りの進行に従って神牌が祀られる。

## 2 仮面

仮面は36面あり、今回祭りの復活に伴い新たに製作された。全て竹製。祭壇や神像の付近に置かれる。以下に造型を記す。名称は仮面の裏の記載に基づいている。

### (1) 蛇蛮

額から鼻にかけてピンク、目から下はオレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目部分が剥り抜かれている。口は上歯に牙2本を生やし、左右が剥り抜かれている。鼻は大きく、2つ穴が開けられている。黒色の眉毛と毛髪は竹の根が利用されている。

### (2) 猿蛮

額から鼻にかけて黄色、頭と目から下はオレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分は剥り抜かれている。口は歯列を見せ、左右は剥り抜かれている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。白い眉毛と口髭と顎髭は竹の根が利用されている。

### (3) 梅董

額は黄色、鼻は赤色、目から下はオレンジ色。目は、白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が剥り抜かれている。口は上歯が歯列を見せ、左右に牙が生やされ、左右が剥り抜かれている。口から頬に向かって模様が描かれている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。黒い眉毛と立った毛髪は、竹の根が利用されている。

### (4) 梅憲

額は黄色、鼻はピンク色、眉から下はオレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が剥り抜かれている。口は上歯の左右に牙を生やし、左右が剥り抜かれている。鼻は高く、2つの穴が開けられている。頬に模様が描かれている。黒い眉毛と立った毛髪は、竹の根が利用されている。

(5) 叉蛮

額から鼻にかけて白色，目から下は赤色。目は，白く縁取られた黒目が残され，白目の部分が削り抜かれているが，三日月にすっきりとした目である。口は一文字に結び左右の端に上から牙を覗かせ，左右が削り抜かれている。鼻はすっきり高く，2つの穴が開けられている。赤色の頬の髭と眉毛と毛髪は，竹の根が利用されている。

(6) 何氏

全面ピンク色，頬の部分は少し濃いピンク色。目は白く縁取られた黒目が残され，白目部分が削り抜かれている。口は閉じている。鼻は大きく，2つの穴が開けられている。眉毛の間に赤い丸が描かれている。黒い眉毛と毛髪は，竹の根が利用されている。

(7) 鎮壇

全面オレンジ色だが，頭の部分は黄色。目は白く縁取られた黒目が残され，白目部分が削り抜かれている。口は一直線に白で描かれた上に5つの丸い穴が開けられている。鼻は大きく，2つの穴が開けられている。一直線に生やされた白眉毛と口の周りから頬まで豊に蓄えられた髭は，竹の根が利用されている。

(8) 進宝郎君

全面オレンジ色，冠部分は濃いオレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され，白目部分が削り抜かれている。口は削られている。鼻は大きく，2つの穴が開けられている。黒い眉毛と頬髭，冠からのぞいた髪は竹の根が利用されている。

(9) 日値

全体ピンク色。目は白く縁取られた黒目が残され，白目の部分が削り抜かれている。口は，舌をだらっと出し，上の歯を見せていて，左右は削り抜かれている。鼻はすっきりしていて，2つの穴が開けられている。黒い眉毛と頭の左右に立った毛髪は竹の根が利用されている。

(10) 時値

全体はオレンジ色。面の丸みが強い。目は大きく，白く縁取られた黒目が残され，白目の部分が削り抜かれている。口は結ばれ，左右が削り抜かれている。鼻は細く額の部分から鶏冠のようにつき出させている。赤い眉毛と頬髭と中央に突き立った毛髪は竹の根が利

用されている。

(11) 年値

頭から額は黄色，鼻は黄土色，右の頬は緑色，左の頬はピンク色，右の顎は白色，左の顎は黄色。額に赤丸が描かれている。目は白く縁取られた黒目が残され，白目の部分が削り抜かれている。口は結び左右が削り抜かれている。口から頬にかけ赤で文様が描かれる。鼻は高く，2つの穴が開けられている。黒い眉毛と鼻の下の髭，頭の中央の赤，右の白，左の黒の毛髪は竹の根が利用されている。

(12) 月値

額から鼻にかけて黄土色，右の目から下は緑色，左の目から下はピンク色。目は白く縁取られた黒目が残され，白目の部分が削り抜かれている。口は大きく赤で縁取られ，上から大きな牙が生やされていて，左右が削り抜かれている。頬には赤で模様が描かれている。鼻は大きく，2つの穴が開けられている。黒い眉毛，頬髭，毛髪は竹の根が利用されている。

(13) 黒狷

額から鼻にかけて黒色，額中央に縦に一筋黄色の線，目から下は緑色。目は大きく，白く太めに縁取られた黒目が残され，白目の部分が削り抜かれている。口も大きく，歯列を見せ，上歯の左右に牙が生やされていて，左右が削り抜かれている。鼻も大きく，2つの穴が開けられている。口から頬に白色で模様が描かれている。赤い頬の髭，眉毛，立った毛髪は，竹の根が利用されている。

(14) 白狷

額から鼻にかけて白色，額中央に縦に一筋ピンクの線，額から下はピンク色。目は白く太めに縁取られた黒目が残され，白目の部分が削り抜かれている。口は上歯の歯列を見せ左右に牙が生やされていて，左右は丸く削り抜かれている。鼻は高く，2つの穴が開けられている。ピンクの眉毛と頬髭，立った毛髪は，竹の根が利用されている。

(15) 黄狷

額から鼻にかけて黄色，額中央に縦に一筋赤の線，額から下はオレンジ色。目は，白く太めに縁取られた黒目が残され，白目の部分が削り抜かれている。口は，上歯の歯列を見せ，左右に牙が生やされていて，左右

が丸く削り抜かれている。鼻は高く、2つの穴が開けられている。赤い頬の髭、黒い眉毛と頭頂部のみの毛髪は、竹の根が利用されている。

## (16) 紅猖

額から鼻にかけて濃いピンク色、額中央に縦に一筋赤の線、額から下は赤色。目は、白く縁取られた黒目が残され、白目の部分は削り抜かれている。口は上歯の歯列を見せ、左右に牙が生やさされていて、左右は丸く削り抜かれている。頬には黒で模様が描かれている。赤の頬の髭、眉毛、立った毛髪は、竹の根が利用されている。

## (17) 緑猖

全面緑色、額中央に縦に一筋赤の線。目は白く太めに縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は上歯の歯列を見せ左右2本の牙が生やさされていて、左右は丸く削り抜かれている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。黒い頬髭、眉毛、立った毛髪は、竹の根が利用されている。

## (18) 竹王

額から鼻にかけて白、目から下はピンク色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目部分が削り抜かれていて魚形をしている。口は大きく、歯列を見せ、左右が削り抜かれている。鼻も大きく、2つの穴が開けられている。黒色の眉と頬の髭、立った毛髪は竹の根が利用されている。

## (19) 判官

額から鼻にかけて茶色、目から下は草色。目は白く縁取られた大きな黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は赤く周りが縁取られ、上下に牙のようなきざぎざの歯列を威嚇するかのように見せ、左右が削り抜かれている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。頭には判官の冠を被り、冠からはみ出した黒い毛と顔の周り全体にもじゃもじゃに生やされた鬚は、竹の根が利用されている。

## (20) 土地

全面オレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれていて、垂れた目をしている。口はまばらに隙間を開けて、歯列を見せていて、左右は削り抜かれている。鼻は高く、2つの穴が開けられている。頭には黄色い被り物を付け、そこからはみ出

した白い毛髪と、長く伸びた眉毛、顔全体を覆った長い髭は、竹の根が利用されている。

## (21) 把壇

全面オレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は四本の歯が隙間を開けて並び、左右が削り抜かれている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。頭に黄色い被り物を付け、そこからはみ出した黒い毛髪と眉毛と頬から顎にかけて長く蓄えられた髭は、竹の根が利用されている。

## (22) 招財童子

頭から鼻にかけて白色、目から下はピンク色、額に赤い丸が描かれている。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれているが、目全体が大きく、魚形をしている。口はやはり大きく、赤で縁取られ、上下の歯列を見せていて、左右が削り抜かれている。鼻も大きく、2つの穴が開けられている。黒い眉毛と中央及左右に立っている毛髪は、竹の根が利用されている。

## (23) 梅李

額から鼻にかけてオレンジ色、目から下は黄土色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は上歯の左右に牙2本が生やさされ、左右が削り抜かれ、外側にしわが描かれている。鼻は大きく、下に穴2つが開けられている。茶色の頬髭、黒色の眉毛と毛髪は竹の根が利用されている。

## (24) 梅胡

額から鼻にかけて黄土色、目から下はオレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分は削り抜かれている。口は上歯の3本の牙とかみ合わせて下歯に2本の牙が生やさされていて、左右は削り抜かれている。頬に模様が描かれている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。赤い頬髭と黒い眉毛と立った毛髪は竹の根が利用されている。

## (25) 梅趙

額から鼻にかけて黄色、目から下はオレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は牙のようなきざぎざの歯列を見せ、左右が削り抜かれている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。茶色の眉毛と、黒色の頬髭と顎髭と毛髪は竹の根が利用されている。



(26) 糾嘴

額から鼻にかけて黄色、目から下はオレンジ色。目は白く太めに縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は一字に開けられている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。白い眉毛、頬髭、顎髭、僧侶のような帽子からはみ出している毛髪は竹の根が利用されている。

(27) 殷元

額から鼻はオレンジ色、鼻の頭と目から下は黄緑色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は歯列を見せ、上歯中央2本が牙のように尖っていて、左右は丸く削り抜かれている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。黒い眉毛、頬と口の左右上の髭は、竹の根が利用されている。

(28) 郭将

額から鼻にかけて黄色、目から下はオレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は下の歯は歯列を見せ、上の歯は左右2本の牙を生やし、左右は丸く削り抜かれている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。黒い眉と頬と顎の髭、立った毛髪は竹の根が利用されている。

(29) 周将

全面オレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は上歯の左右の尖った2本は外側に向かって、下歯の2本は内側に向かって生やされていて、左右は削り抜かれている。鼻は高く、2つの穴が開けられている。黒い眉毛と、額中央から頭に向かう赤い毛髪と頬の髭は竹の根が利用されている。

(30) 監齋

全面オレンジ色。目は白く縁取りされた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は大きく、舌を出し、上歯をのぞかせ、左右が削り抜かれている。鼻は高く、2つの穴が開けられている。黒い眉毛、頬から顎にかけての髭は、竹の根が利用されている。

(31) 趙元

全面ピンク色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は赤く縁取られ、上歯が歯列を見せ左右に牙を生やし、左右は丸く削り抜かれている。頬には赤で模様を描かれている。鼻は

高く、2つの穴が開けられている。黒い眉毛、やっこのような頬髭と顔の周りから頭の中央部に立った毛髪は、竹の根が利用されている。

(32) 二郎

全面オレンジ色。目は額の中央の縦目と合わせて3つあり、白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は上下の歯列を見せ、左右が削り抜かれている。鼻は高く、2つの穴が開けられている。赤い頬の髭、黒い眉毛と左右の頭頂部の毛髪は竹の根が利用されている。

(33) 小鬼

額から鼻にかけて草色、額から下はオレンジ色。目は白く太めに縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は上下の歯列を見せ、上歯の左右に2本の牙が生やされ、左右は丸く削り抜かれている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。黒の頬の髭と眉毛と毛髪が一体化しているが、竹の根が利用されている。

(34) 唐将

額から鼻にかけて草色、目から下はオレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は上下の歯列を見せ、上歯の左右に2本の牙が生やされ、左右は丸く削り抜かれている。鼻は高く、2つの穴が開けられている。赤い顎の髭とこめかみの毛、黒い眉毛と中央に立った毛髪は竹の根が利用されている。

(35) 王元

額から鼻にかけて黄色、目から下はオレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目の部分が削り抜かれている。口は上下の歯列を見せ、左右が削り抜かれている。鼻は高く、2つの穴が開けられている。赤い頬髭、黒い眉毛と立った毛髪は、竹の根が利用されている。

(36) 馬元

全面オレンジ色。目は白く縁取られた黒目が残され、白目部分が削り抜かれている。口はギザギザ尖った歯列を見せ、左右が削り抜かれている。鼻は大きく、2つの穴が開けられている。白色の眉に頬髭、黒色の立った毛髪は竹の根が利用されている。

## V 祭りの内容の説明

祭りの次第に従って内容を以下に記す。

### 1 請水発牒の内容

人壇前で師父は法冠、法衣をつけ令牌、牌帯をもち、ステップを踏み神を招く。紙銭を燃やし、占いを行う。

師父と楽隊が列を作り、紅漆淹井という湧き水に清水を取りに行く。湧き水の所で供物を並べ線香を点す。水の来源等を歌う。囃子に太鼓、チャルメラ、ドラが鳴らされる。鶏を供犠とする。紙銭が燃やされる。文書(牒文)が読み上げられる。水を竹筒に取り、祭場に戻る。

### 2 揚幡挂榜の内容

四值功曹の場所で、師父は神の来臨を願う。鶏が供犠とされ、紙銭が燃やされる。神の訪れる入り口の目印として、竹に幡をつけて掲げる。一方「評王券牒號」を記した垂れ幕を反対側にはる。式次第が記された宣榜が読み上げられる。

### 3 立五楼四寨の内容

人壇前で師父は、ドラ・太鼓の囃子に合わせ、歌いながらステップを踏んだり、牌帯を振ったりする。師杖を祭壇に向かって右上、右下、左下、左上、中央の順に地面に挿し、肩に牌帯をかけ、師刀をふり、師杖に向かって符を書き、牛角を吹く。鶏を清水で清め、盆に米を載せ、その上に鶏を載せ、逆時計回りに回転する。鶏を投げ捨て供犠とする。師父は、草木の葉を身に付けた男女6人を呼び、足を踏みならし腕を上げて神兵の訓練を表現する。

### 4 点兵差五猖困鼓壇の内容

師父は歌いながら、左手に牌帯右手に令牌をもち、人壇に向かって右、左、中央の方向に進む。師杖を回し、肩に担ぐ。東方青五猖、南方赤五猖、西方白五猖、北方黒五猖、中央黄五猖の五猖兵馬を呼び寄せる。

耍碗拳は頭に碗を載せ、雑戯のようなことを行うのだが、これは五猖兵馬の武芸を表すとされる。師父はまず頭巾の上に線香を使って符を書いた上被る。手に

は3個ずつの碗をもち、鶏を供犠とする。ステップは、前→左→右→下→左上→右→右下→前に進み回転→でんぐり返しを繰り返す。手印を結ぶ。ト具で占う。

面をつけた男女6人が男は棒、女は旗をもち、師父の先導で東門から薩壇に入り、西門から出る。また南門から入って中央門から出る。人壇向かって右下手の箕の上には、五方と中央に米の入った碗、豚の脂身の入った碗が置かれ、そこで紙銭が燃され、鶏が供犠とされ、占いが行われ、鶏の血が紙銭に垂された上燃やされる。

### 5 請聖下馬行官献訣勸酒の内容

師父は人壇に向かって歌い、牌帯を揺らし、手印を結び、紙銭を燃やし、占いをする。法冠、法衣をつけ、ベルを手にもつ。薩壇の盤古、杖星蛮王、蛇星蛮王、獐星蛮王、董盤王、憲盤王それぞれの像と竹王の竹寮の前で礼拝する。次に四值功曹の祭壇前で礼拝をする。

人壇に戻り礼拝する。線香、果物、酒を置いた盆を助手がもつ。師父は笏の上に竹の杯を載せ回転する。笏にト具を載せて投げて占う。左手に牌帯、右手に笏をもって舞う。師杖を祭壇前の地面に挿し、手印を結ぶ。鶏を供犠とし、鶏をもって足の間をくぐらせ、振り回す。鶏に紙銭を被せ火をつける。法衣を取り、礼をする。

### 6 開壇の内容

師父は人壇前で歌いながら牌帯と令牌や旗を揺らし、36の神聖を呼ぶ。手印を結び、紙銭を燃やし、占いをし、礼拝をする。ステップは、前→後→前→回転→右で膝を曲げ→左で膝を曲げるを踏む。

### 7 祭盤王の内容

2人の師父は葉を身に付け草の冠を被り、草鞋を履く。人壇前で牌帯をもって舞う。中央の門から薩壇に入り、竹王の竹寮に入る。神々の像を回る。朴の木の葉、葛の根、茅の根、栗、リンゴ、梨、蜜柑を供物とし、盤古に捧げ、3回ずつ大声で供物の名を叫ぶ。大声で開天闢地を歌う。あひると鶏が供犠とされる。紙銭が燃やされる。人壇前で身に付けていた葉や草を取り、礼をして終わる。

## 8 上雲梯・開天殺の内容

この時歌われるのは、母の10ヶ月間の妊娠の苦しみ、人々が八瑠瑤山へ移動して来た経路、開天闢地の経過について、また五穀豊穰、国泰民安、家畜保護等を願う内容。ステップの部分に刃物が取り付けられた梯子を登る上雲梯と額に傷を付ける開天殺は、宗教者の行う辟邪の法術である。法を行う前に師匠の故李道相の夫人と抱き合い、師匠の加護を得ようとしたりする。師匠の額から流された血は碗に受けられ、それは黄色の短冊形の符に塗られ護符として配られたり、血の入った酒は人々に振る舞われる。

まず師匠は人壇前で牌帯と令牌をもち、歌いながらステップを踏む。占いをし、紙銭を燃やす。赤い鉢巻きを線香で符を書き清めた上付ける。草鞋を出し、手印を結び、脱いだ靴と草鞋に向かって祈る。草鞋を履く。他の師匠らが法冠、法衣をつける。人壇前で牌帯と令牌をもち祈る。

師匠の先導のもと祭場に梯子が運ばれ、櫓に取り付けられる。師匠は梯子の所で、師刀で符を書き、地面の土を取り息を吹きかけ、令牌をもち回転した後、土を足の下に敷き、押さえつける。鶏を手にもち、人壇に戻り、額を傷つける刃物をもつ。

人壇向かって右下の箕の上には5個の碗、線香、豚の脂身、紙銭等が置かれているが、この箕のまわりを時計と逆方向に回り、刃物を差し上げ大声を上げる。

刃物を口にくわえ、梯子を登る。梯子の上で鶏を差し上げた後落とす。牛角を吹く。額に傷を付け、下で待ちかまえている清水の入った碗の中に血を3滴受ける。梯子を下り、薩壇を回り、西門から入り中央門から出る。人壇正面に戻り、占った後法衣を脱ぐ。

盆に米を敷き、竹の杯を並べ、先程の血を入れた清水を入れ、観衆に振る舞う。飲んだ人はお布施を納める。

## 9 三祭竹王の内容

師匠は、人壇前に跪き、歌い、紙銭と令牌をもち礼拝する。赤いターバン、法衣をつける。牛角を鳴らす。師杖を回す。男女6人は五猖兵に扮し、草や葉を身に付け、草鞋を履き、男は鉄砲女は笛をもつ。祭場及び薩壇を師匠の先導で回る。狩りのまねごとをし、山羊

の足跡を探し、山羊をえる。

山羊を薩壇に運び、喜びを表す山歌を歌い、東門から入る。蛇星蛮王の前で、山羊は喉を切られ、血が器に受けられ、紙銭に血が付けられ、蛇星蛮王の顔や董盤王の顔に血が塗られる。本来は塗らないそうだが、竹王の顔にも血が塗られた。男女はそれぞれにも血を塗り合う。師匠の草笛が悲しく響く。

ごぎが敷かれ、師匠がでんぐり返しをする。男女を集め、師匠は笛を吹き、師匠と男女との間で会話があった後、皆で碗の肉を食べる。師匠は後ろに肉を撒く。獲物を皆で食するのだが、嬉しそうである。

師匠は歓慶舞の来歴を歌い、ごぎを腰に巻いて回転する。盤古に礼をした後、竹王の像の前で、師匠2人が手を繋ぎ会話をし、2人は抱き合い交互に持ち上げ、声を挙げる。太鼓をもつ師匠と会話をし、次に2人は背中合わせでお互いに背中に乗り上げ声を上げる。次に2人はごぎに向かい合って座り、足を組み合わせ手を繋ぎ引っぱり合いつつ時計と逆に回り、声を上げる。これらの所作は媾合を表現しているとされる。

竹王の面を人壇に移動させるために中央門から出る。面を人壇上に祀り、その前で線香で符を書く。師匠は人壇正面に座って男女と会話をし、男女は竹太鼓をもって登場し、竹太鼓を鳴らしながら舞う。その間蛇星蛮王にはあひるが供犠とされる。師匠は人壇前で法衣を脱ぎ牛角を鳴らす。

## 10 接何氏六娘の内容

何氏の何は和と音通で、和合を意味するとされる。

師匠は人壇前で歌い、2人が法衣を着、牌帯と令牌をもってステップを踏み、牛角を鳴らす。何氏を迎えに祭場の外へ出る。傘を差し、赤い衣装の何氏に扮した女性2名が桃源洞に見立てた道端で待つ。その場で、紙銭が燃やされ、供物、清水が供えられ、線香が点され、鶏が供犠とされる。師匠は口に清水を含み何氏に向かって吹きかける。線香で符を書く。占いをする。歌に合わせて師匠は牌帯を振り、後ずさりしながら何氏を誘導する。何氏は円を描くようなステップを踏みつつ、前進する。爆竹が鳴らされる。

祭場まで誘導し、薩壇を回る。人壇前で師匠は情歌を歌いながら、何氏と肩を組み、ステップを踏む。四



値功曹の壇にも行く。東山老人、南山小妹の像を線香で符を書き清め、何氏の1人の女性が南山小妹を、師父の1人が東山老人をもち、前に後ろに揺らして交差させるなどして遊ばせる。最後に祭壇に向かって大きく飛ぶような所作をする。

その間女性たちによって観衆にどぶろくが振る舞われ、頂いた人はお布施を納める。師父は法衣を脱ぎ、腕を前に回しつつ、前→回転→後→回転のステップを踏む。占いをし、牛角を吹く。

### 11 四祭盤王の内容

師父は人壇前で赤いターバンと法衣をつける。もう1人の師父が牌帯を敷き、その上に跪き、令牌をもち、歌い、手印を結び、紙銭を燃やし、占いをする。牌帯と令牌をもち、左右に足をつけ膝を曲げ、後→前→後→前に回転する→膝を曲げるステップを踏む。ターバンと法衣をつける。

1人は竹竿に布をつけて肩にかけ、1人は師杖をもち師刀を揺らす。もう1人が加わり会話をし、この内容を聞いて観衆は笑う。師杖と師刀を牌帯と令牌に持ち替え、2人で竹竿を使って船を操り、竹竿につけた布を網に見立てて投げて魚捕り、エビ捕りを表現する。船に乗り降りする際の危うさなどがよく表現されている。

竿に獲物を担ぎ、あひると鶏を獲物として引いて、薩壇に東門から入り、盤古に礼をし、獐星蛮王の所に行く。2人で会話をし、紙銭を燃やし、文書を読み上げる。鶏とあひるを供犠とする。人壇前に戻り、歌った後、紙銭を燃やし、法衣を取りステップを踏む。

### 12 過火海

師父が人壇前で祭儀を行い、薩壇では炭で鉄の犁先が熱せられている。盤古の前で線香が点され、酒等の供物、ご祝儀の入った紅包が置かれ、鶏が供犠とされる。師父は師刀で符を書き、米を手にし手印を結び、呪文を唱え、米を土に埋め、足で踏む。靴を脱ぎ、裏返し、手を打ち手印を結び、水の入った碗を取り線香で符を書き、息を吹き込み、唱えごとをする。占いをする。水を指につけ、裸足の足の裏に符を書く。

犁先を取り出し、素足の裏で撫でる。松明と一緒に

もち、油を吹きかけ火を燃え立たせつつ薩壇を回る。時々犁先を足で撫でる。東門から外へ出て、外でも同様に言い、薩壇に戻る。紙銭を燃やす。手印を結び、米を火に撒く。人壇正面に戻り、足を観衆に見せる。ステップを踏み、法衣を脱ぎ、牛角を吹き鳴らす。

次に別の師父が同様に祭儀を行い、今度は熱した竹の筒を口に入れる。

### 13 扛郎君の内容

師父は、人壇正面で歌いながら、牌帯や令牌をもち、手印を結び、ステップを踏む。また占いをを行う。牛角を吹く。師杖をもち四値功曹の祭壇に移動し、手印を結び、紙銭を燃やし、祭壇上の進宝郎君の仮面の上に線香で符を描く。手印を結んで仮面をつける。師杖を回しつつ人壇正面に戻る。師杖を回しながら祭場を巡る。

次にもう1人と対話を行う。鎌をもち手を左右に揺らし、もう一方の手にもった紙銭を切り、後に前に足を進める。この時2人で歌う。“オー”と声を上げ、両手を万歳させ、鎌を捨ててしゃがみ、次に鉞をもちやはり紙銭を切る。紙銭に火をつけ、見物人の方まで近づき場内を回る。これは、山を切り開き、焼畑農耕（イモ、トウモロコシ、アワ、ソバ）を行っている所を表したものとされる。占いをし、箒で燃えかすを掃き集めて燃やし、灰をちりとりを集める。斧を振り、開墾を演じる。次に鉞を振るう。

鉞で地面を搔いているうちに、牛角を見つける。この牛角は牛の鞍を表しており、人に授ける。次に鈴を見つけるが、これは銀子を表しており、やはり人に授ける。

もう1人の師父が師杖を地面に挿し、師刀をもって歌う。師杖の前に竹筒を供え、師杖を倒す。師杖に師刀を通し、師杖を斜めにする。2人の師父が師杖を挟んで対面し、時計回りに回り、師杖をまたいで対面する。これを続ける。占いをする。これは木を倒し橋を架け、道を作る事を表しているとされる。

また鉞を担いで歌いながら祭場を回る。鉞で地面を搔く。もう1人と会話をし、牛角を牛に見立て、鞭で誘導する。これは犁起こしを表すとされる。次に先程集めた灰をまき散らす。これは施肥を表すとされる。

師杖をしろかきの柄として前進する。苗を植える所作を行う等、稲作を表現する。

次に五方にシートを敷き、その上ででんぐり返しをする。これは五方を開き財路を求める事を表すとされる。仮面を取り、祭壇前で唱えごとをする。歌い、牛角を吹く。

#### 14 祭先祖接土地の内容

師父は人壇前で歌いながら、宝冠を付け、法衣を纏い、牛角を吹く。木製の土地神の面を付け、節のある杖と扇をもった師父を先頭に首に旗を刺した6人ずつの男女、囃子が行列して福神の土地神を迎える為に土地廟へと向かう。男女は2列になり、進行方向を見て、右足を前に蹴り、左足を前に蹴り、右足を前に蹴り、互いに向きあい、右足を前に蹴り、左足を前に蹴り、互いに交差し、右足を後に蹴り、左足を後に蹴り、進行方向を見て右足を前に蹴るステップをドラとソーナーのリズムに合わせて続けて前進する。

土地廟に続く道の中央に土地面を飾り、祭場を作り、紙銭を燃やす。酒、供物、米の入った竹筒に線香を挿したものを、清水を供える。師父は唱えごとをし、占い、鶏を供犠としその血を紙銭に垂らし燃やす。線香で土地面に向かって符を描き、数種類の手印を結び、扇をもち、土地面を付け、杖をもつ。祭儀の間1人の師父と男女は山歌を歌っている。

土地神は大笑いをし、扇をあおぎ、語りを始めるが、周りの人々がそれに対応し、返答をする。ドラに合わせて土地神が歌うが、それを聞いて人々が笑う。爆竹が鳴らされる。

土地神を先頭に村を練り歩いて祭場に戻る。その間土地神は扇をあおぎつつ、腰を落とし、体を揺すったり回転したりする。また女性に戯れたりする。

人壇前に土地神は座り師父と会話をする。土地神の前で師父は牌帯を振りステップを踏む。男女も前進する時のステップを踏む。

土地神の面を線香と共に祭壇の下に置く。師父は手印を結び、符を書き、唱えごとをし、米を撒き、あひるを供犠にし、占いをする。

師父は牌帯を敷いて跪き、礼をする。男女は足を前に蹴るようにして退場。師父は宝冠と法衣を脱ぎ、ス

テップを踏み、牛角を吹く。

#### 15 做辞送の内容

まず人壇前でドラ、太鼓、チャルメラに合わせて、2人の師父が上下の法衣とターバンを付け、歌う。ステップを踏み、牌帯を敷き跪き、礼をする。師杖を挿し、牛角をもち、歌いつつ回る。1人は師杖と師刀、1人は弓と矢をもつ。祭場で、2人は会話をしながら狩りを表現する。三崗梅山、五陣猖兵、十万天仙兵、十万地仙兵、五姓地神土主、各姓門中先祖、師傅、廟王聖衆に供物を配る事が意図されている。野鶏と野あひるをしとめ、獲物を師杖に付け、会話をしながら祭場を回り、薩壇に行き、神々に礼拝を行う。

憲盤王の前で会話をし、太鼓の縁を叩く音に合わせて歌う。文書を読み上げ占う。あひると鶏を供犠とし、紙銭を燃やす。薩壇の外に出て、正面祭壇に戻り、法衣を取りステップを踏み、牛角を吹く。

人壇の前方に、机を2段に重ね祭壇を設置する。上段には竹の棒に紙銭を付けた御幣のようなものを3本付け、間に紙製の赤と緑と白の華のような飾りを付ける。5本の神牌が右から「陳公大副烏公二副之神位」「五方巡界○大王聖之神位」(○は不明)「金歳天符大帝行化商尊位」「五路諸天五路○頭大将位」「五路山神君然四山神○位」の順に米の入れられた碗に挿してある。供物として米の粉を円くした大小の齋粿、豚の脂身、酒が供えてある。下段にはやはり米を満たした碗に3本の神牌が左「本宗堂上○氏門中先祖位」、中「本境有感城隍廟王福主之神位」、右太上老君の像の順に並べられている。下段の机の下の地面には「○船劉太保李氏三娘之位」の神牌が置かれる。

師父は手印を結び、唱えごとをし、占いをする。上下に手を回しつつ足踏みをし、占い、手印を結ぶ。口にした水を吹き、口に線香を入れ、唱えごとをし、占う。令牌で符を描き、大声で唱え、令牌を机に打ちつけ、牛角を吹く。師父は宝冠を付け、法衣を付け、歌い、牌帯を振り、ステップを踏む。太鼓のリズムに合わせて做辞送の経を読む。跪いて文書を読む。占いをし、文書を箱状の入れ物に入れる。紙銭を積み上げ、紙銭の束をもち、占う。宣榜の脇に貼られていた、門中、陰師、太歳、火官、土主、瘟使、玉皇、廟王、城王、

社令、虫皇の神々の絵姿を紙銭に挟み、1人ずつ神像の神の名を呼び、占いをする。すべて括ってまとめておく。紙銭を燃やし、占い、鶏を供犠にし、法衣を取り、ステップを踏む。

師父は上下の法衣を付ける。竹のわくに紙が貼られて作られ目の付けられた瘟船の前に、下段の神牌を飾る。笏をもち、牌帯を敷き跪き、紙銭を燃やし、占う。師杖をもち師刀を揺すり、船の前方5方向に師杖を挿し、その前で師刀を揺すり、前後に足を運び、時計と逆に回る。

人壇前では、別の師父が牌帯を揺らし、ステップを踏み祭儀を行う。

先程の最後の位置(図2の⑤)で立てた師杖を倒し、師父は赤の鉢巻きをする。師杖を樹木に見立てて、瘟船を作る所作を行う。師刀と笏を使い、木を切ったり釘を打ちつけたりする内容を表す。

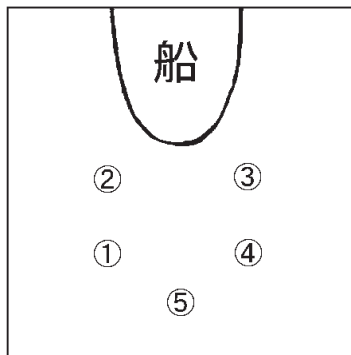


図2 師杖を挿す位置

船に向かい、筆で符を書き、時計と逆に回り左足を踏むと同時に筆で点を入れる所作を行う。占いを行う。師杖を挿し、あひるを手にし、手印を結び、紙銭を口に含みその紙銭を神牌の線香の上にかざした後、あひるの口に押し込む。あひるの口先に符を書く。

靴を草鞋に履き替え、脱いだ靴の上で手印を結び、占う。腰を落とし、時計と逆に回転し、靴に手を入れ占う。瘟船の前で歌い、師刀を揺らし、左右のステップを踏み、手印を結んで前後に揺れる。両足を揃えてジャンプし、占う。手印を結び、前後に揺れる。師杖を挿し左右に回す、右足の裏を見せ、突然師杖に寄り掛かりジャンプし大声を上げ、占う。瘟船とあひるをもって揺らし、回転する。

瘟船を四值功曹の祭壇の所にもって行き、置く。做辞送の祭壇に戻り、再び令牌をもち回りながら瘟船の所に戻り、瘟船の中に向かって手印を結び、師刀と令牌を両手でもって揺すり、最後に左足の裏を瘟船に向ける。囃子はドラ、太鼓、ソーナがずっとおどろおど

ろしく鳴らされる。

做辞送の祭壇前でステップを踏み、歌い、牛角を吹く。師杖を祭壇にかけ、手印を結び、占う。

## 16 倒台発散の内容

祭儀は、人壇とその前方に2段に組まれた做辞送の祭壇と四值功曹の祭壇において同時進行で執り行われる。

人壇前で、師父は手印を結び、占い、ドラ、太鼓、チャルメラの音が止むと唱えごとをし、師刀を「二十八宿星君值年太歳位」の神牌の挿してある香炉に挿し、服の中に隠すように手印を結ぶ。左足を踏みしめ、占う。

做辞送の祭壇では、師父が師杖を祭壇上部に掛け、数々の手印を結ぶ。両手を合わせ、両人差し指を払う、両手を組む、両指をからませて組む、組みながら手首をねじる、右の手を開き左手はげんこつにする、3本指をつける、両指を1本ずつ組み、開いて掌をかえす、人差し指を突き立てる等の手印を次々と結ぶ。祭壇に供えてあった齋粿が人々に撒かれ、人々は争って頂く。

人壇前では、師父が宝冠と法衣を付け、唱えごとをし、礼をし、牛角を吹く。判官面を付け、祭壇前の机に向かって座る。判官に向かって師父が牌帯と笏を打ち合わせて音を出し、歌う。牌帯を振り、左足を軸に時計と逆に回り、後に下がり、前へ出ると同時に回るというステップを繰り返す。判官は筆に見立てた線香を手にもち上から下に下ろす所作をする。師父が笏で符を書くと、判官も線香で符を書く。紙銭を燃やす。紙銭を丸めてもち、歌い、師父は時計と逆に回転する。

人々がその後に集まり、師父が回転する時に、手を合わせて礼拝を行う。文書を判官が師父に渡す。それを跪いて読み上げる。占う。皆占いの結果に興味津々の様子である。判官が願いを聞き届けてくれ、人々が平安に保たれる卦は陰と陽がそろう勝卦だとされる。

師父は判官に向かい礼をし、もっていた紙銭を引っぱり合い、占う。判官は令牌を机に打ちつける。判官は机を離れ、師父は祭壇前で牌帯を振り、礼をする。

一方四值功曹の祭壇では鶏が供犠とされる。

人壇前では、判官面を被った師父が歌う。水を入れた小杯を笏に載せ、左右にステップを踏み、礼をする。

薩壇の方に向かい礼をし、前方の祭壇方向に向かって礼をし、周りの人々もそれに従って手を合わせて礼をする。杯を祭壇に戻し再び各方向に向かって礼をする。歌いながら、旗をもって米を祭壇に撒き、旗を揺らす。もう1人の師父が幾通りも手印を結びながら、回転し、口の中で唱えごとをし、占いをする。

中の3本指を祭壇に突き立てる、手を打ち、人差し指を突き立て、両手の指を組む等手印を結ぶ。礼牌で符を書く。礼牌を机に打ちつける。占いをする。手印を結ぶ。

祭儀が終わると、一斉に片づけ始める。祭場にある神像等竹や紙で出来たものを全て取り払い、トラックに乗せる。

先触れとして村の門々に線香を挿す役の者と、鐘を叩く者が村の通りを行く。

松明と瘟船をもった者がドラ、チャルメラ、太鼓の囃子と共に賑やかに村の通りを進む。村の中で依頼された2軒の家を訪れ、除災を行う。仮面を置かしてもらった家と師父たちが泊まっている家である。瘟船は家の中を一巡りし、師父が家の中で牌帯を振り、ステップを踏む。入り口で占いをし、庖丁で床に符を描き、水桶をひっくり返す。米や胡麻の入った紙包みを家の人から受け取り瘟船に入れる。

土地廟の所まで瘟船を運び、その他の取り払われたものと一緒に積み上げ、全て焚き上げられる。その前に米の入った竹筒・酒・供物が置かれ、師父たちは師杖に足をかけ、種々な手印を結んだり、占いをしたり、火に米を投げ入れたりする。この間は鳴り物が鳴らされる事はない。手印を結んだまま、後→前→左→右→左下→右上→右横→時計と逆に回転のステップを踏む。右足を軸に左足の裏を見せ、逆に右足の裏を見せ、占う。鶏が供犠にされる。

最後に師父は師杖で線を引きながら下がり、牛角を鳴らす。両手の小指をからませて印を結ぶ。土地廟に供犠の鶏を供え、線香を点す。

## VI 基本となる祭祀要素

基本となる祭祀儀礼として、足の運び、法具、供犠、手印がある。

## 1 足の運び

足の運びは基本的なパターンがある。回転は時計とは逆が基本とされている。

○前→前→右→後→左前→後→時計と逆の方向に回転→前→右→後→左前→後→右前→後→時計と逆の方向に回転…

○後→前→後に下がりつつ時計と逆方向に回転→前→後→前に進みつつ時計と逆方向に回転→後…

○膝を曲げつつ左→右→左→後→前→時計と逆に回転

これらのステップが組み合わされる。

## 2 法具

法具は神通・召神・辟邪・鬼神の使役に用いられる。

○牌帯 30 cm ほどの棒に沿って、長さ 40 cm、幅 3 cm ほどの布切れを 20-30 枚取り付けたもの。これを左右に振りながら神よばいをしたり、肩にかけたりする。

○令牌 頂点が円く底の平たい、紫壇等の木板、高さは約 17 cm、幅約 6 cm、厚さ 2 cm。表面に「法三清靈玉皇老君勅令」、裏面に「吾奉勅令雷雷雷雷霧霧」、側面に「掃邪」「歸正」と刻してある。これで祭壇等を叩き、神々に代わって命令を出し、神霊を召し寄せる。

○師刀 直径 15 cm センチの鉄環に穴あき銅銭を通し、20 cm ほどの鉄製の柄が付いたもの。これを振り鳴らす事で、神霊を呼んだりする。

○笏 長さ 30 cm、厚さ 2 cm 位の木板。頂点が三角に尖り、赤く塗られ、表面に神や鬼神や花等が彫られている。神霊を召し寄せる。

○収兵旗 三角の旗。これを振り、神霊を呼ぶ。

○竜角 水牛の角製で、先端に木製の吹き口がつけられ、真ん中に小さな穴が開けられていて、吹く事ができる。儀礼の区切りで吹き鳴らされる。

○師杖 長さ 1 m 30 cm 位の杖。神霊を呼んだり、悪霊を駆逐するのに用いられる。

○卦子 竹の根を半円形に削った 5 cm ほどのト具。凸面を陰、凹面を陽とし、陰と陰が揃うと神が同意していると判断されている。儀礼の中でたびたび神の意志が問われ、揃うまで投げられる。人々が運勢を占う場合は、陽と陰が揃う方が平安を保つのでよいと考え



られている。

### 3 供 儀

神への供儀として鶏やあひるや山羊が首の部分を取られ殺され、その血が紙銭にしたたらされた上、紙銭は燃やされる。

### 4 手印 (手訣)

手印の種類は大変多く、召神、神通、辟邪等に用いられる。呪文を口にしながらか両手の指を組んで多様な形にする。神へ送られる手と指による信号である。

## VII 考 察

### 1 『評王券牒號』について

『評王券牒號』を横幕に記し掲げる事の意義を考えたい。内容の概略は龍犬盤獲(瓠)が、中国皇帝評王と夷狄高王との戦争に勲功を立て、その褒賞として皇帝の公主を妻に貰い受け、男女6人ずつの子を設け、それが12の姓を創設する事になり、皇帝との姻戚関係から、各地の山地の専用権や租税の免除などの特権がこの勅牒によって承認され、また12姓の子孫は官品爵禄を受けるが、ただし漢族との交婚は禁じられるというものである。またこの勅牒は正忠(理宗)によって景定元年(1260年)にあらためて発されている。内容から見れば「北タイ版評皇券牒」と「広東版評皇券牒」<sup>(1)</sup>、「トンキン版評皇券牒」「広西版評皇券牒」と比べても12姓の入れ替え等が見られるもののほぼ一致している。

『後漢書』などの古代版の槃瓠神話のモチーフが踏襲されており、時の経過と共に分裂し、各地に離散した瑶族を標榜する集団が広く共有する、瑶族のアイデンティティの根幹ともいえる内容である。

共同体全体で執り行われる祭祀儀礼の場に『評王券牒號』が掲げられる事によって、あらためて自分たちが祀ろうとしている祖先の所業及び認められた特権的地位や権益を確認し、自己同定を行っているのである。

しかし八峒山瑶族が伝承している犬祖神話(槃瓠神話)は垂れ幕に記されているだけでなく、盤獲(瓠)の像は祭場の南の位置に置かれている。元来は犬頭人身で表されるとされるが、今回は外国人に見せる事も

あって人頭で表されていた。蛇星蛮王とも称される像であり、祭りではこの像の前で盤獲(瓠)の伝承によればその死の原因ともなる山羊が供儀とされ、その血が像や仮面に塗りつけられた。なぜ盤獲(瓠)ではなく蛇星蛮王と称されているのかは不明であるが、蛇星蛮王と龍犬盤獲(瓠)の蛇と龍そして瓠とは共に水に関係が深く虫蛇類への信仰とも繋がるので、このように称されるのかと推測される。

盤瓠は『魏略』には老婦人の耳から繭ほどの大きさの虫が出てきて、それを瓠に入れ槃を被せておくと、犬に変じたので槃瓠と名をつけたとされる。ひさごのような小宇宙から変じた龍犬は、『三五歴記』に鶏の卵のようであった宇宙から誕生したとある盤古とも繋がる神話的要素をもつといえる。

さて天地を開闢したとされる盤古の3m位の像が薩壇の中央に右手に月左手に日を掲げて立っている。祭りのなかで盤古に対して開天闢地が歌われる事からも、盤古が天地創造の神と考えられていると考えられる。三国時代に徐整が書いた『三五歴記』の盤古と60年代に湖南省の零陵地区郴州地区の瑶族から採集された盤古の『盤王大歌』<sup>(3)</sup>そして今回の内容は、盤古が天地を開闢した点では一致している。

祭場には重層する神話世界を見出す事ができるといえる。もう一つの神話上の人物は竹王である。祭場中央奥の竹で作られた建物竹寮の住人であるが、玉面天尊とも称され、祭りでは瑶族の祖先神として祀られ、特に竹王の前で男女の性的な交わりを表現する所作が行われる。

『後漢書』「西南夷伝」には夜郎国の王は流れてきた竹の中から生まれ、竹を姓としたとある。やはり竹筒の小宇宙に宿って漂い誕生するのである。『水経注』には竹王が剣で石を撃ち水を出し、それが竹王水とされるとある。祭祀のなかでも、紅漆の湧き水から竹筒に清水を取る事が重要な儀礼として行われる。やはり水との深い結びつきを感じさせる。

実際この地域は孟宗竹の産地で付近一面は竹林の山である。地域的な地理的環境が新たな神話を取り入れる契機となった可能性がある。

竹王と盤獲(瓠)と盤古は祭祀のなかでそれぞれに祀られるが、瑶族が時を経て種々な民族との接触のな



かを取り入れてきた重層する神話世界を表している。天地創造の盤古、族祖の盤獲（瓠）そして最も近い祖先の竹王と考えられるのではないだろうか。

## 2 宣榜について

宣榜は祭場の後ろに貼られ、儀礼の中で宗教者によって読み上げられる。その記述を以下に略述する。記述は、「慶賀盤王大古堂事」から始まる。この事からも、主な祭神は盤王であることがわかる。

宗教者の代表として秦法旺の名のもとに、三清玉皇老君五雷五嶽梅山神にお願いする形式が取られている。

祭りは、湖南省宝慶府新寧県黄金、麻林、靖位等の村の住民のために執り行われるとされ、人民政府が支援しているとされる。

主な主催者の名が挙げられ、線香、燈明、ロウソク、紙銭、打ち上げ花火、食事等の準備にあたった方の名、囃子方の担当者の名、男女6人ずつの出演者の名、56年ぶりの復活にあたって文献を調べた方の名などが挙げられている。

旧暦8月21日（10月4日）から23日（10月6日）まで、祭場を整え神像を配置し、神々をまぎ降ろし、五龍の法水を取り、場を清め、農耕や狩猟漁撈を演じ、長鼓をならし舞い踊り、盤王を祀り、刃物の梯子登りや額を傷つける事や熱した犁先に素足で触れる等の法術を行い、犠牲を供え、願望を伝え、神送りをする事が滞りなく執り行われるようにとも記されている。

願うのは、この地から災いが祓われ、この地が平安になり、五穀が豊穡で災害にも遭いませぬように等とも記されている。最後には秦法旺の牌印が押されている。

この宣榜の内容は、祭儀ではしばしば神に向かって読み上げられた後、焼かれて届けられる文書（牒文）の内容とも一致する。文書は黄色い紙に最初の神名は赤字で文面は墨で書かれている。

記述され、公開され、また神に対して声に出して読み上げられる事で伝えられる祭りの式次第である。

## 3 歌について

祭儀の中では数多くの歌が歌われるが、開天闢地歌と成親歌を例にする。

盤古は開天闢地に関わる神とされるが、歌詞を概略すると、(1) 母婆が盤古を生んだ。(2) 母婆の命令で盤古は天地を分けた。(3) 太陽は10個、月は4個あり昼夜を分かたず照らしていた。(4) 盤古が母婆の命令で、太陽と月を射た。(5) 母婆が山や水や米を創造した。(6) 飢餓で人間が苦しんでいると母婆が穀物を撒いた、とある。

母婆の存在が大きく扱われ表現されている点が、『三五歴記』の盤古とは異なる特徴といえる。

また成親歌の内容を概略すると、兄が妹に求婚し、妹が兄からの求婚を承諾する条件として、(1) 石臼を東と西から転がし、ぴったり合う事(2) 川を隔てて髪をすく事が出来る事(3) 山路を兄が先に行き、妹が後から行き、ぴったり出会う事、を欲求するとある。

洪水、渡海等の要素は盛り込まれていないものの、婚姻の始まりを兄妹の婚姻とする、極めて重要な神話的題材が祭りの中で歌われている。

現在でも、祭りの場で神話世界が歌われ、祭りに呼び出された神々の所業が讃えられ、また祖先の所業が歌われることで、自分たちの瑶族としてのアイデンティティが再確認されているのである。

また男女6人によってかけあいでもてなされ、人々の心情が歌という方法で祭りの場で表現されている。本来祭りの場は神々の世界が歌われるだけでなく、この世の男女の歌かけの場であった事が想像される。

## 4 唱えごとについて

祭儀の中では多くの経文が唱えられるが、開紅殺の時の唱えごとを例にすると、その内容には、母の懐妊と胎児の1ヶ月ごとの成長、生まれて後の子育ての苦勞が見られる。“私の血は母の肉”という文言があり、母から授かった身を傷つけるのだという意識が伺える。開天闢地の盤古に始まり、東山老爺、南山小妹、竹王、五嶽三清、玉皇大帝、太上老君、龍虎十二真君、張天師、李天師、72代の天師、三元法主、……九子太婆、飛天太乙將軍……五海龍王、河泊水宮、湖南と湖北の廟神、日月二宮星君、二十八宿星君、天皇一郎、張台二郎、聖主三郎……雲頭十郎、梅宵一姑、二姑福婆、…冥地府皇官、四值功曹、土地、……五瘟……等々の神々の名が並べられており、遠くから近くの神までありと

あらゆる神々を呼び出そうとしている。これは神々の助けを借りて、法術を成功させようと意図しているといえる。

次に『起仍科』は1988年12月に陸法高氏によって写本された経典で、内容は「発表」、「請水」、「告廟」、「慶橋」から成り、祭祀の中で唱えられる。

中でも「請水科」は祭祀に必要な清水を得る時に唱えられるが、まず唱えごと全体をまとめた次のような七言の詩の偈から始まる。

地厚山重路遠遙  
川岩透石莫辞勞  
德鑿神尊成作溝  
終為大海作波濤

その後「請聖」として、上司三十三天、元始靈宝、道德天尊、昊天至尊、玉皇上帝、太上老君、龍虎十二位真君、左右衛内、張李二天師、四十八代老祖天師の神々の名を並べ、來臨を願う。

このように、「祭表」、「告廟」、「慶橋」においても、多くの神名を述べまた何万もの神兵を呼び集めようとする。

やはり陸法高所有の1989年正月の写本には、「始祖生庚」、「慶老君」、「神咒」等が収められている。「神咒」には、金剛咒、老君咒、雷神咒、放生咒、土地咒等がある。老君咒には、「淮南李老君に請う。香案を供えれば、鬼神を驚かす。乾上乾元亨利貞。南方丙丁に火焚を唸ず。黒晴北方壬に水を癸し。硃砂は洞庭に赴く。昨日に鬼を捉え、今日に命なく、大鬼は打たれ、小鬼は皮をむかれ、鬼に会えばすぐにこれを殺す。太上老君よ急々如律令、急ぎ律令の如くせよ。」とあり、乾元亨利貞といい、急々如律令といい、悪鬼を祓う呪文が見える。

次に「做辞送」を例にすると、この経文は、十二支の年、春夏秋冬の季節、1年12ヶ月、二十四節季、五方のそれぞれの時空を司る瘟神の名や生年月日が挙げられている。

例えば、季節の瘟神について、『三教源流搜神大全』に見える五瘟使者は、春瘟張元伯、夏瘟劉元達、秋瘟趙公明、冬瘟鍾士貴、総管中瘟史文業とされる。「做辞送」では、春瘟張元伯、夏瘟留元達、秋瘟趙公明、冬瘟鍾任貴とある。劉元達の劉が留に、鍾士貴の士が

任となっていて、若干の差があるもののよく知られている瘟神が上げられているといえる。

このように五方、月、季節等を司る瘟神の名を挙げる事は、六朝時代の天師道のものとして『女青鬼律』にも見えるとされ、大変古い起源をもつ伝承といえる。

祭りの場で、最後にすべての時空を司る疫病神の名を挙げ、お別れをいい、瘟船に乗って頂き、遠くへ去って頂く事が目論まれている。疫病神を追い払う事が意図された儺の儀礼が祭りの最後に執り行われていることは大変重要な意味を持つといえる。

## 5 仮面の造型について

36面は神が表現され、祭りの中でも祭壇上等に祀られている。

特徴的な造型としては、目の黒目が全ての面で残されており、これは目の呪力を表現したものと考えられる。

口は歯列を見せ、上歯の牙が生やされている事が多い。ぐっと歯を食いしばって、威嚇する様子が表現されているといえよう。舌を出しているものもありこれも威嚇の表現であろう。

面の色づかいはオレンジ色とピンクが多用されている印象を受けた。神の性格が表現されているものと考えられる。

面はすべて竹製で、生活を支えている竹を用いて神々が表現されているといえる。髭や毛髪に竹の根が利用されている点は、竹の材質が生かされているといえる。

以上簡単な考察を試みたが、未だ調査が不十分である為、今後修正を加えなければならぬ部分がある事をつけ加えさせて頂きたい。

## 注

- (1) 白鳥芳郎編『傜人文書』講談社1975年、胡耐安「説傜」『边疆論文集第一冊』国防研究院、中華大典編印会1966年、松本信廣「槃瓠伝説の一資料」『加藤博士還暦記念東洋史集成』富山房1941年、蒲朝軍編『中国瑶族風土志』北京大学出版社1992年に見える。
- (2) 松本信廣「槃瓠伝説の一資料」『加藤博士還暦記念東洋史集成』富山房1941年で槃瓠と水の信仰との密接な関係を論じている。
- (3) 湖南少数民族古籍辦公室編『盤王大歌』下 条岳麓書社1988年。



写真1 湧き水から清水を取る祭儀



写真2 盤古に供物の名を大声で挙げながら捧げる

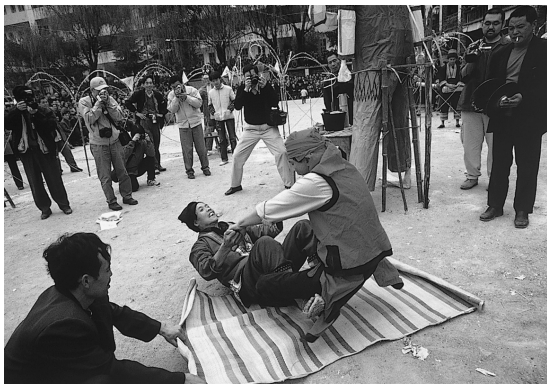


写真3 竹王の前で媾合を表した所作

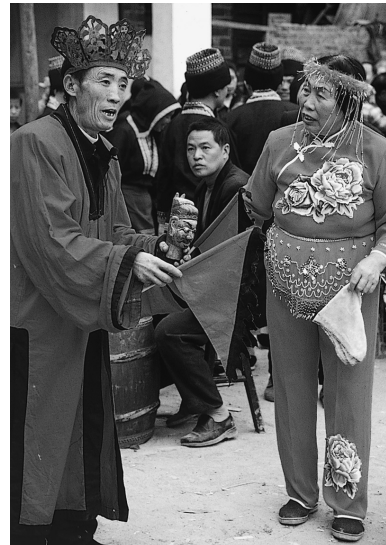


写真4 東山老人の頭部をもつ師父と何氏六娘



写真5 獐星蚕王に文書を読み上げる

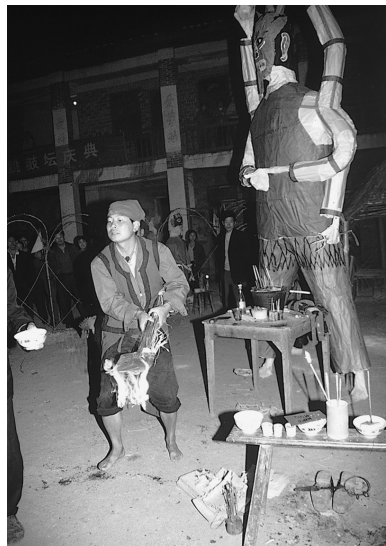


写真6 熱した鉄の犁先に素足で触れる





写真7 扛郎君が農耕を行う



写真8 盪船に災いを乗せる



写真9 人壇



写真10 蛇蛮面



写真11 評王券牒号